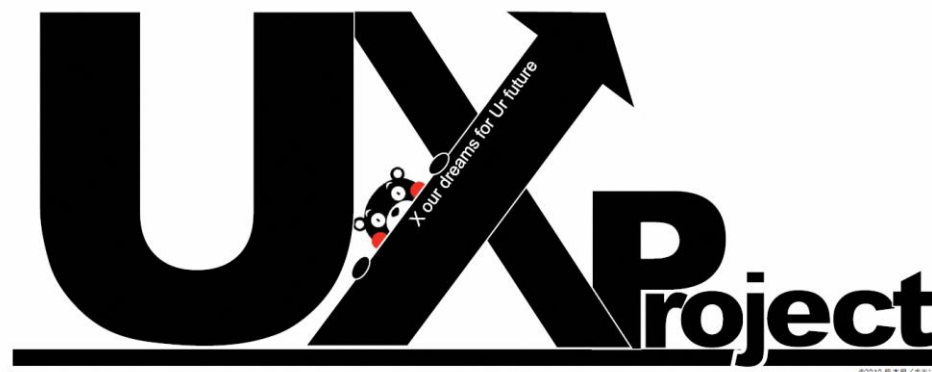




UXプロジェクト実施計画（第1期）の 取組み実績・分析

UXプロジェクト実施計画（第1期）について

- 基本計画で掲げた「起業家・企業・研究者等の集積等による賑わいの創出」の実現に向け、**R3～6年度の具体的な取り組み方針を定めた実施計画（第1期）**をR4年4月に策定。
- 実施計画（第2期）の策定に先立ち、**第1期の実績をまとめ、評価・分析を実施**する。

1. 背景と目指す姿

① 50年、100年後を見据えた新たな産業の柱の必要性

- ・県経済の持続的発展のため、半導体、自動車関連に次ぐ、県内産業の新たな柱が必要

② ライフサイエンス分野における熊本県の強み

- ・水資源など豊富な天然資源、全国トップクラスの農業生産
- ・理工系の大学等から多数輩出される産業人材
- ・創業の研究等医療・薬学分野での高度な研究
- ・医療、健康、食品等の分野のベンチャー企業の活躍

③ 阿蘇くまもと空港周辺地域における拠点性の高まり

- ・半導体や自動車関連分野を中心に数多くの企業が立地
- ・「大空港構想Next Stage」の取組み

本プロジェクトの
目指す姿

ライフサイエンス分野を中心とした
県内産業の「第3の柱」の創出

2. 10年間の取組みの方向性

【阿蘇くまもと空港周辺地域を拠点とした「知の集積」】

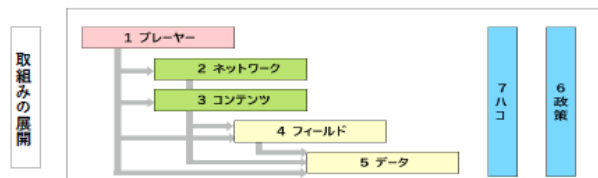
全国から起業家・企業・研究者等が集い、生まれることによる賑わいの創出

3. 基本計画と実施計画の策定

- ・県内産業の「第3の柱」の創出に向けた長期にわたる取組みを計画的に推進

【**基本計画**】：UXプロジェクトの基本的な考え方と重要な取組みを整理
（期間）令和3年度～令和12年度までの10年間

【**実施計画**】：基本計画に掲げた取組みを具体化
（期間）令和3年度～令和6年度までの4年間



4. 具体的な取組みの推進

基本計画（令和3年度～12年度）

1 プレーヤー

UXプロジェクトに参画するプレーヤーを育成、誘致

2 ネットワーク

プレーヤーに対して、企業・研究機関等とつながる機会を提供

3 コンテンツ

各段階に応じて伴走する体制「チーム熊本」の整備、アイデア創出段階から支援する仕組みの構築

4 フィールド

実証実験の場を提供

5 データ

ビジネスに結びつくデータにアクセスできる体制を整備

6 政策

行政としての継続的支援

7 ハコ

プレーヤーの交流や共同実験を行うための施設を提供

実施計画（令和3年度～6年度）

- ・スローガンの対外発信等による人材の発掘と呼び込み

- ・人材育成プラットフォームの構築と運用

- ・オープンイノベーションプログラムと実証実験機会の提供

- ・つながる機会とクロスする場を通じた連携関係の構築

- ・専門人材（コーディネータ）の配置による連携の促進

- ・支援体制「チーム熊本」の組成及び連携したサポートの実施

- ・資金供給体制の整備

- ・アイデア創出のための学生・研究者向けプログラムの提供

- ・実証実験フィールドの提供（規制緩和の見直し）

- ・データ連携基盤の構築

- ・県医師会・熊大との連携体制構築

- ・県・市町村・企業等が有する各種データとの連携

- ・行政側の長期的な支援体制の整備

- ・新たな施設（イノベーションハブ、コワーキングエリア、共同実験エリア）の整備

- ・各種イベントの開催
- ・影響力のある人材等の招聘
- ・企業等の誘致
- ・UXプロジェクト会員登録制度の創設

- ・ビジネスプロデューサー人材の育成
- ・データサイエンティスト人材の育成
- ・各種人材育成施策との連携

- ・企業等の協業に係る支援
- ・ビジネス創出支援
- ・技術の磨き上げ等の支援

- ・イノベーションハブの整備
- ・オンラインコミュニティの形成
- ・県外、国外とのネットワークの構築

- ・専門人材の配置
- ・企業・団体との連携による機能の確保

- ・支援企業・団体の集積（会員登録制度）
- ・チーム熊本の組成の推進
- ・若手研究者に対する支援
- ・資金供給体制の整備

- ・アイデア提案・実践プログラムの実施
- ・アイデアやデータの蓄積と活用

- ・データ連携基盤の構築に係る設計
- ・ガイドラインの検討

- ・データ活用手順・手続きの整備
- ・データの匿名化手続きの検討
- ・KMNの研究開発等への試行運用

- ・健康データを活用したプロジェクト
- ・市町村等の健康データとの連携の検討
- ・行政データとの連携の検討

- ・イノベーションハブの整備
- ・大学、産業支援機関等との連携
- ・既存施設の利用による場の早期提供
- ・テクノロジーパークの賑わいの創出

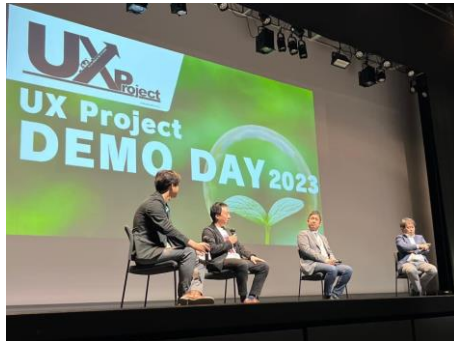
1.(1) スローガンの対外的発信等による人材の発掘と呼び込み

1. プレーヤー ～多種多様な人材の集積・育成～

- 各種イベントの開催等でUXプロジェクト自体の認知度向上を図り、これまで産業支援課で出会わなかったような人々との関わりを持つことができた。また、人材情報をプールする仕組みである「UXメンバーシップ制度」を創設し、700名を超えるコミュニティを組成した。

【KPI達成状況】(R7.3.21時点)

- UXメンバーシップ制度登録者数：150者 ⇒ **716者**
- イベント開催回数：6回 ⇒ **36回**
- イベント新規参加者数：120人 ⇒ **2,546人(延べ)**



UX Project DEMO DAY2023



日台ライフサイエンス交流会 in Kumamoto

【第2期計画策定に向けての懸案事項】

- UXプロジェクトのネットワーク形成は進んだが、登録のメリットが少なく、コミュニティ内の賑わいが不足。
- プロジェクトを推進するような知名度・影響力のある人物を見つけることができていない。
- Pre-UXイノベーションハブでの民間主体イベントの開催が少ない。

① 各種イベントの開催

- ✓ UXプロジェクトの年間を通じた成果報告を実施する「**UX Project DEMODAY**」を開催。
- ✓ 熊本・台湾におけるライフサイエンス分野のSUを核としたマッチングイベント「**日台ライフサイエンス交流会 in Kumamoto**」を開催。
- ✓ 米国シリコンバレーや台湾のSU等と国内企業等との交流プログラム「**2024 US-Japan Healthcare Connection**」を開催。
- ✓ その他、Pre-UXイノベーションハブ等や様々な施設において、UXプロジェクトに関する様々なイベントを実施。

② 影響力のある人材等の招聘

- ✓ 医療機器エコシステムを軸としたライフサイエンス分野に精通した**池野文昭氏(スタンフォード大学主任研究員)**をUXプロジェクト計画策定会議委員として招聘。R4年度より「**熊本県産業政策アドバイザー**」に就任。
- ✓ UXプロジェクトに資する情報共有等連携・協力を目的とし、**三菱商事(株)九州支社とMOU**を締結。

③ 企業等の誘致

- ✓ UXプロジェクト起点の誘致実績は生まれていないが、県外企業のプロジェクト参画、イベント参加の実績を創出。

④ UXプロジェクト会員登録制度の創設

- ✓ UXプロジェクト内のネットワーク形成のため、R4年度より「**UXメンバーシップ制度**」を創設。
- ✓ 県内外の産学官金の分野より、様々な方に登録いただき、**登録状況は“407団体・699名”**。(R7.2.28時点)。

1.(2) 人材育成プラットフォームの構築と運用

1. プレーヤー ～多種多様な人材の集積・育成～

- JASM進出を始めとした半導体関連産業の県内投資の流れに伴い、大学等の教育体制の充実化が図られており、データサイエンス等の育成が促進されている。この流れを踏まえ、UXプロジェクトとして、独自に人材育成に係る講座を開設せず、各種人材育成施策と連携した。

【KPI達成状況】(R7.3.21時点)

- ビジネスプロデューサー育成講座の参加者数：30人 ⇒ 0人
(講座開設はなし)
- データサイエンティスト育成講座の参加者数：40人 ⇒ 0人
(講座開設はなし)



第9回熊本テックプラングランプリ (R6開催)



熊本イノベーションフォーラム (UX連携講演)

【第2期計画策定に向けての懸案事項】

- 人材育成に係る講座の開設を、第1期において実施することができなかった。
- 次世代ベンチャー創出支援コンソーシアムの事業期間終期がR7年度であり、新しいSU支援体制との連携内容を検討する必要がある。

① ビジネスプロデューサー人材の育成

② データサイエンティスト人材の育成

- ✓ UXプロジェクト独自の人材育成に係る講座開設はなし。
- ✓ R5.4に熊本大学、熊本県立大学、東海大学が「一般社団法人熊本地域大学ネットワーク機構」を設立。文部科学省「地域活性化人材育成事業～SPARC～」において、R4年度に採択された「くまもとの未来を拓くグローバルDX人材育成プロジェクト」を推進。
- ✓ R6.4に熊本大学が「情報融合学環」を創設。人口知能、ビッグデータ分析、情報科学、統計学を含むデータサイエンスを総合的に学ぶことが可能であり、それらを駆使してイノベーションを創出し、国際社会で活躍できる人材を育成。

③ 各種人材育成施策との連携

- ✓ 自然共生型産業（アグリ・バイオ・ヘルスケア等）など、新たな成長産業の創出につながるベンチャー等の取組みを後押しする「熊本県次世代ベンチャー創出支援コンソーシアム」と連携。「熊本テックプラングランプリ」等で見いだされた事業を、UXプロジェクト実証実験サポート事業等で支援。
- ✓ 熊本ゆかりの有志の経営者が集い、熊本から世界をイノベートする企業家育成を目指す「一般社団法人熊本イノベーションベース (KUIB)」と連携。企業家・起業家向けのイベント「熊本イノベーションフォーラム」を県・市共催で開催。
- ✓ くまもと技術革新・融合研究会 (RIST)にて、産業技術に関する基礎技術の研修、調査研究、共同研究、情報交換等を、産学官が一体となって実施。UXとの連携プロジェクトとして、「地域企業によるフードテック・アグリテック分野における新たな技術開発」をテーマとした技術検討会等を開催。

2.(1) オープンイノベーションプログラムと実証実験機会の提供

2. ネットワーク ～つなぐ・つながる機会の提供～

- 社会課題解決に向けた実証実験の支援や、県内外の企業によるオープンイノベーション事業を実施し、新事業創出・事業化を推進した。また、くまもとメディカルネットワークにおける医療データのビジネス利用に向けた検討を実施し、大学との共同研究スキーム促進に向け協議を実施した。

【KPI達成状況】(R7.3.21時点)

- パイロットプロジェクトへの参画者数：60者 ⇒ **69者**
- パイロットプロジェクトによる企業等のマッチング※件数：10件 ⇒ **26件**
- パイロットプロジェクトを契機とした事業化件数：5件 ⇒ **6件**

※ 連携や協業により、新たな技術・製品・サービス等の創出に向けて取り組むもの



(株)白鷺電気工業・(株)Rogica実証実験 (R5実証サポ)



(株)興農園・(株)Root実証実験 (R5アクセラ)

【第2期計画策定に向けての懸案事項】

- ライフサイエンス分野における実証ならではの課題（実証期間の確保等）が顕在化している。
- 伴走支援の中で提供するモニターやフィールド等がアセット化できておらず、都度ゼロから検討しなければならない。

① 企業等の協業に係る支援

- ✓ 県/市町村の社会課題解決につながる実証実験に対する支援として「**実証実験サポート事業**」を実施。実証経費支援（最大200万）や実証モニター・フィールド確保等の伴走支援もメニュー化。申請数も多く眼玉施策と位置づけ。
- ✓ 新規事業創出を望む県内地場企業と多様なアイデア・プロダクトもつ全国のスタートアップ企業等の協業による新規事業創出支援として「**UXアクセラレーションプログラム**」を実施。企業マッチング支援や実証実験経費支援をメニュー化。R7年度からは、本事業の受託者である肥後銀行にて自走化予定。
- ✓ R5年度に県・熊本大学、県医師会の3者で「**くまもとメディカルネットワーク（KMN）における医療データの利活用等に係る連携会議**」を開催。その決定事項に沿って、KMNを活用した熊本大学と民間事業者との共同研究の先行事例実施に向けて調整・検討を実施。
- ✓ 実証実験サポート事業やアクセラレーションプログラムでの成果、新たなビジネスプランを発信する「**UX Project DEMODAY**」を開催。
- ✓ 未来志向の農業事業者によるピッチイベントとして「**UX Farmer's Pitch**」を開催。マッチング後も事業化に向けた経費支援を実施。

② ビジネス創出支援

- ✓ 産学官連携により組成された「**熊本県次世代ベンチャー創出支援コンソーシアム**」にて、シーズの磨き上げや経営ノウハウの助言等の伴走支援を実施。
- ✓ また、コンソーシアムの取組みとして、ビジネスプランコンテストである「**熊本デックプラングランプリ**」を開催。若者の起業家マインドの育成を促進。

③ 技術の磨き上げ等の支援

- ✓ 県産業技術センターにて、県内企業からの技術相談、依頼試験を実施。技術面における「売れるものづくり」を支援しており、相談・依頼件数も増加。

2.(2) つながる機会とクロスする場を通じた連携関係の構築

2. ネットワーク ～つなぐ・つながる機会の提供～

- 令和4年度にPre-UXイノベーションハブを整備。コワーキングスペース、会議室、イベント・セミナー開催可能なオープンスペースとして多くの方に利用いただいた。また、UXイノベーションハブについては、令和6年度に「基本構想」を発表し、民間活力を生かした整備の具体的な動きを進めた。

【KPI達成状況】(R7.3.21時点)

- 交流の場（Pre-UXイノベーションハブ）の延べ利用者数（累計）：1,800人 ⇒ **4,960人**
- オンラインコミュニティへの登録者数：50者 ⇒ **126者**



Pre-UXイノベーションハブ 機能紹介パンフレット



TJPO/熊本県 産業連携に関する覚書

【第2期計画策定に向けての懸案事項】（ハードについては後述）

- オンラインコミュニティ・SNSの活性化について検討する必要がある。
- TJPOとの連携の中で、台湾企業にUXプロジェクトの施策を紹介いただいているが、現時点で具体的に採択等された事業がなく、連携具体性に欠ける。

① イノベーションハブの整備

- ✓ テクノリサーチパーク内に所在する民間ビルの一画に、コワーキングスペースや会議室、イベントやセミナー開催可能なオープンスペースを備えた拠点「**Pre-UXイノベーションハブ**」を令和4年度に開設。
- ✓ 企業関係者、起業家、研究者等による研究開発と交流の拠点となる施設「**UXイノベーションハブ**」の整備に向け、庁内及び関係機関との協議・検討を実施。令和6年7月に、ハブの機能イメージや整備方針をまとめた「**UXイノベーションハブ基本構想**」を公表。
- ✓ 令和6年10月からテクノリサーチパーク内の**県有地及び財団所有施設の売却に係る公募を実施**。令和8年度中のハブ開設を目指す。

② オンラインコミュニティの形成

- ✓ ビジネス用のメッセージングアプリ「**Slack**」を活用し、**オンラインコミュニティを組成**。UXメンバーシップ制度の登録者が、オンライン上で気軽に情報発信・交流できる場を提供し、メンバー間のコミュニケーション増進を図った。
- ✓ UXプロジェクトの取組みをPRするために、**専用のホームページを開設・運用**。公募・イベント情報の他、過去の支援事業紹介も実施。

③ 県外、国外とのネットワークの構築

- ✓ 双方の国際競争力強化のため、**台日産業連携推進オフィス（TJPO）と「産業連携に関する覚書」**を締結。
- ✓ TJPOとの連携に基づき、双方協力のもと「**日台ライフサイエンス交流会 in Kumamoto**」を開催。【再掲】
- ✓ 米国シリコンバレーや台湾のSU等と国内企業等との交流プログラム「**2024 US-Japan Healthcare Connection**」を開催予定。【再掲】

2.(3) 専門人材の配置による連携の促進

2. ネットワーク ～つなぐ・つながる機会の提供～

- 「コーディネーター機能の早期確保策」として、新事業創出を目指す県内企業と全国スタートアップ企業等をマッチングするUXアクセラレーションプログラムを実施。また、令和6年度から、「UXコーディネート事業（トライアル）」を実施し、事業化に向けた伴走支援を実施。

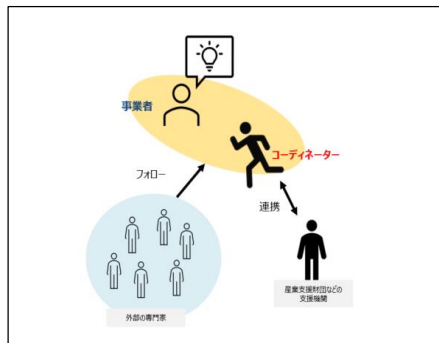
【KPI達成状況】（R7.3.21時点）

- コーディネーター（機能）による企業等のマッチング※件数：18件
⇒ **13件**

※ 連携や協業により、新たな技術・製品・サービス等の創出に向けて取り組むもの



産学官金のサポーター・プレーヤーでの
パネルディスカッション



支援イメージ

【第2期計画策定に向けての懸案事項】

- ステータスや課題が事業者によって異なり、コーディネーターに求める支援もそれぞれであり、幅広い領域の支援をカバーできるコーディネーター機能が必要である。
- 事業者からのニーズを踏まえ、どのようなコーディネート体制がベストであるか確立できていない。

① 専門人材の配置

② 企業・団体との連携によるコーディネーター機能の確保

- ✓ 県内企業との強力かつ広範囲なネットワークを有する地方銀行、全国のスタートアップ企業等とのネットワークを持つ民間企業と連携し、「**コーディネーター機能の早期確保策**」として、**UXアクセラレーションプログラムを実施**。新事業創出を目指す県内企業がそれぞれの取り組みテーマを設定したうえで、協業するスタートアップ企業等とのマッチングを実施。
- ✓ **令和6年度より、「UXコーディネート事業（トライアル）」を実施**。令和3～5年度における実証実験サポート事業・アクセラレーションプログラム採択者の中から、コーディネート先を選定し、事業化に向けた支援を2件実施。
支援事例1：資金調達のための投資家向け説明資料のブラッシュアップ
支援事例2：販売戦略策定に向けた顧客属性の明確化
- ✓ コーディネート先の選定においては、候補となる事業者に対し、アンケート調査及びヒアリングを実施。このヒアリングの中で、どのようなコーディネートが求められているのか、併せて調査・検討。
- ✓ 長期的な支援を検討する観点で、コーディネート事業初年度からくまもと産業支援財団との連携して支援を実施。財団のリレーションを活用した課題解決等を図る。

3.(1)「チーム熊本」の組成及び連携したサポートの実施

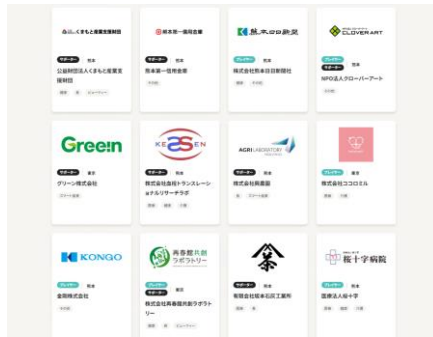
(2) イノベーションの持続的な創出のための資金供給体制の整備

- 各実証事業に応じた関係機関との連携をすることはできたが、「チーム熊本」体制の明確な組成には至らなかった。また、くもと産業支援財団と連携し、既存の投資制度の中に、通常分より優遇措置が付加された「UX投資制度」を創設した。

【KPI達成状況】(R7.3.21時点)

- 支援企業・団体等の登録者数：30者 ⇒ **60者**
- 「チーム熊本」による支援件数※：45件 ⇒ **42件**

※ 「2(1)オープンイノベーションプログラムと実証実験機会の提供」におけるパイロットプロジェクトへの参加者に対する支援



UX会員情報の可視化 (UXプロジェクトHP)



UX投資制度の説明 (UX Project DEMO DAY2024)

【第2期計画策定に向けての懸案事項】

- UXプロジェクトの個別支援案件に協力いただけるサポーターが可視化できておらず、都度ゼロから協力依頼をしなければならない。
- 民間投資会社・ファンドとの連携ができておらず、資金供給体制が弱い。

① 支援企業・団体の集積 (会員登録制度)

- ✓ 「サポーター」に属する多くの企業・団体等の方が、UXメンバーシップ制度に登録。
- ✓ また、UXプロジェクトのホームページにおいて、会員の属性 (プレーヤー・サポーター等) が可視化できるよう改修。

② チーム熊本の組成の推進

- ✓ 実証実験の伴走支援等の中で、関係機関 (自治体、大学、フィールド提供者等) と連携することはできたが、第1期の期間内に「チーム熊本」の明確な組成には至らなかった。
- ✓ 個別プレーヤーごとの「チーム熊本」の支援のあり方を方向付けるとされている「コーディネーター機能」は令和6年度から事業実施。

③ 若手研究者に対する支援

- ✓ 実証実験サポート事業の中に「スタートアップ企業枠 (R6年度からは加点措置)」を設け、大学発ベンチャーを立ち上げた若手研究者への支援を実施。

④ 資金供給体制の整備

- ✓ 令和5年4月1日に公益財団法人くもと産業支援財団は一般社団法人熊本県起業化支援センターを吸収合併。財団において、起業化支援室を新たに創設。
- ✓ 起業化支援室と協議を行い、既存の投資制度の中に、通常分より優遇措置が付加された「UX投資制度」を創設。UXプロジェクトに関与した事業の情報を共有する体制を構築し、財団からの更なる投資を誘発。

3.(3) イノベーションのアイデア創出のための学生・研究者向けプログラムの提供

- アイデアを生み出すプログラムとして、データ活用を推進するオープンデータソン、ビジネスモデルワークショップを開催。また、県内企業とも連携し、企業の課題解決をゴールとした人材育成プログラム「UXチャレンジ」を実施。

【KPI達成状況】(R7.3.21時点)

- 学生等向けアイデア提案・実践プログラムの参加者数：240人 ⇒ **80人**



データ活用型ビジネスモデルワークショップ (R5)



UXチャレンジ (株)ふく成/熊本県立大学現地調査 (R4)

① アイデア提案・実践プログラムの実施

② アイデアやデータの蓄積と活用

- ✓ オープンデータとの向き合い方を考える「**UXプロジェクトオープンデータソン2022**」や、「**データ活用型ビジネスモデルワークショップ**」を開催。いずれも一般社団法人熊本県情報サービス産業協会と連携し、産学官金の様々な属性の参加者ともに、データ活用の可能性について、検討・議論。
- ✓ 学生を対象とした、人材育成プログラム「**UXチャレンジ**」を実施。データ活用や課題解決に向けたアイデア創発の方法に関する学習・ワークショップを実施し、パートナー企業の課題解決アイデアを学生が提案。県内7社の企業が学生と連携。
- ✓ UXプロジェクト主催のイベント・セミナーだけではなく、民間企業主催のイベント等を誘発するため、Pre-UXイノベーションハブの規約を明確化し、周辺自治体、企業、関係機関等に対し、周知活動を実施。

【第2期計画策定に向けての懸案事項】

- データ活用に関するイベントは単発であり、その後の展開・つながりを作り出すまでに至らなかった。
- 学生を対象にしたUXチャレンジは令和3～4年度の2か年開催であり、令和5年度以降は人材育成プログラムを実施していない。

4.(1) データ連携基盤の構築

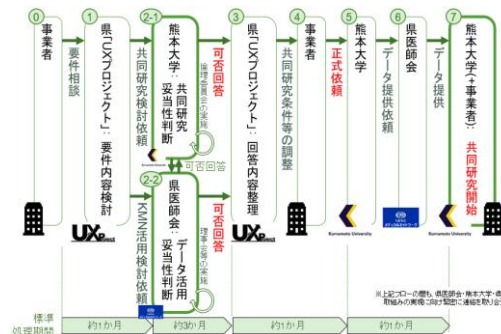
4.(2) 大学、医師会などとの連携体制の構築

4. データ 〜ビジネスに結びつく様々なデータへのアクセス確保〜

- 熊本県、熊本大学、県医師会の三者で、くまもとメディカルネットワークにおける医療データの利活用にかかる連携会議を開催。医療データのデータ連携基盤への接続や熊本大学との共同研究につなげるスキームの検討を実施。

【KPI達成状況】(R7.3.21時点)

- UXプロジェクトが活用できるデータの保有団体数：9団体
⇒ **0団体（実施なし）**
- UXプロジェクトが提供するデータを活用した団体等の数：5団体
⇒ **0団体（実施なし）**
- 学術研究と企業のマッチング運用数：3件 ⇒ **1件**



【第2期計画策定に向けての懸案事項】

- KMNなどの医療データのデータ連携基盤への接続に際して、個人情報の取り扱いや本人同意などの課題への対応が必要。
- KMNに登録されているデータの属性や粒度が公開されておらず、共同研究の相手先企業を見つけることが困難。
- KMNのデータクリーニング、企業リクルート等の諸課題があり、共同研究に向けたデータ取得体制を県・熊本大学・県医師会の三者間で確立できていない。

① データ連携基盤の構築に係る設計

- ✓ 県と市町村が共同利用し、オープンデータなどを連携する「くまもとデータ連携基盤」を構築。（UXプロジェクト独自のデータ連携基盤の構築はなし。）
- ✓ データ連携基盤とKMNの医療データの接続等について三者で協議を実施。

② ガイドラインの検討

- ✓ 上記①協議の中で、ガイドライン検討の前提となる個人情報の取り扱いや本人同意に係る課題等を共有。

① データ活用手順・手続きの整備

- ✓ R5年度に県・熊本大学、県医師会の三者で「くまもとメディカルネットワーク（KMN）における医療データの利活用等に係る連携会議」を開催。
- ✓ 本会議の中で、「KMNの非パーソナルデータを用いた創薬を代表とする研究開発事業等への活用を目標に、UXプロジェクトがハブとなりスムーズに熊本大学との共同研究へ繋げるスキームの検討を行う」ことで合意。

② データ匿名化手続きの検討

- ✓ 諸課題の解決に向けて、共同研究を申し出る企業において、KMNデータの匿名化・クレンジングに係る費用を負担し、必要なデータを取得可能とする体制を三者で検討。

③ KMNの研究開発等への試行運用

- ✓ KMNデータの共同研究に先立ち、熊本大学と㈱ユカリが共同研究を開始。

4.(3) 県・市町村・企業等有するデータとの連携

4. データ 〜ビジネスに結びつく様々なデータへのアクセス確保〜

- 実証実験サポート事業の中で、市町村や医療機関、検診機関が持つ健康データを活用した実証を実施。その他、熊本大学と連携した、市町村診療情報データを活用した未病対策に係る取り組みも実施。

【KPI達成状況】(R7.3.21時点)

- パイロットプロジェクトを通じた蓄積データ数：30件 ⇒ **35件**
- パイロットプロジェクト等を通じたデータ活用に関する連携市町村数：7団体 ⇒ **3団体**



桜十字/ACCELStars 実証
検診メニュー化・全国テレビ放送に取り上げ



熊本日日新聞/美里町 実証実験 (eスポーツ)

【第2期計画策定に向けての懸案事項】(再掲)

- ライフサイエンス分野における実証ならではの課題が顕在化している。(実証期間の確保、倫理委員会諮問へのハードル 等)
- 伴走支援の中で提供するモニターやフィールド等がアセット化できておらず、都度ゼロから検討しなければならない。

① 健康データを活用したプロジェクトの推進

② 市町村等の健康データとの連携の検討

- ✓ 実証実験サポート事業の中に「市町村連携枠 (R6年度からは加点措置)」を設け、市町村の社会課題解決を目的とした実証体制構築を推進。
- ✓ 市町村連携枠として採択した「人吉市 (生活保護受給者における医療データ分析に基づく医療費適正化の実証)」、「美里町 (eスポーツを利用した高齢者における介護予防効果の実証)」においては、市町村が保有する健康データを活用した実証を実施。また、医療機関、検診機関と連携した実証も実施。
- ✓ また、熊本大学の中村特任教授と連携し、未病対策に係る取り組みを実施。(宇城市の保有する診療情報データの解析で病気の予兆を数値化し、効果的な健康指導につなげるプロジェクト。)

③ 行政データとの連携の検討

- ✓ オープンデータとの向き合い方を考える「UXプロジェクトオープンデータソン2022」や、「データ活用型ビジネスモデルワークショップ」を開催。いずれも一般社団法人熊本県情報サービス産業協会と連携し、産学官金の様々な属性の参加者ともに、データ活用の可能性について、検討・議論。【再掲】

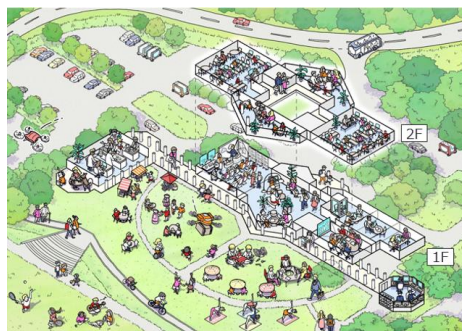
5.(1) イノベーションハブ、コワーキング、共同実験エリアの整備

5. ハコ 〜リアルでクロスする場の提供〜

- 空港周辺エリアに所在する熊本県、熊本国際空港、東海大学の連携協定を中心として、エリア全体の活性化に取り組む。テクニサーチパークにおいては、UXイノベーションハブの令和8年度中開設を目標とし、具体的な動きを進めている。

【KPI達成状況】(R7.3.21時点)

- 交流の場（Pre-UXイノベーションハブ）の延べ利用者数：1,800人 ⇒ **4,960人**
- 賑わい創出に向けたイベント開催数：5回 ⇒ **2回**
- 賑わい創出に向けたイベントへの新規参加者数：25人 ⇒ **1,700人**



UXイノベーションハブのゾーニングイメージ



空港周辺エリアを活用した地域活性化に関する連携協定

【第2期計画策定に向けての懸案事項】

- UXイノベーションハブの機能について、更なる検討が必要。
- Pre-UXイノベーションハブでの民間主体イベントの開催が少なく、利用者が固定化されてきている。
- 空港周辺ではあるものの、空港からテクニサーチパークまでのアクセスが悪く、二次交通を検討する必要がある。

① イノベーションハブの整備

- ✓ UXイノベーションハブ整備に係る動きとしては、令和6年9月にテクニサーチパーク内の県有地及び財団所有施設の売却に係る公募を実施。令和8年度中のハブ開設を目指す。
- ✓ ハブの想定機能は「コワーキングスペース、展示・イベントスペース、専用オフィス・ラボ、共同ラボ、テストマーケティングスペース」等。この想定をベースとし、民間の創意工夫のあるアイデアと連携し、「イノベーション創発」と「人流促進」の融合を目指す。

② 大学、産業支援機関等との連携

- ✓ 令和4年8月、熊本県、熊本国際空港株式会社、東海大学の各社が持つ資源を有効に活用し、熊本空港を中心としたエリアにおける一層の活性化と利用者・関係者の利便性の向上に協働して取り組むことを目的に連携協定を締結。
- ✓ また、令和5年度より熊本県と東海大学にてフード・アグリテック分野での新産業創出を目指す「フード・アグリテック連携プロジェクト」を始動。令和6年4月に「東海大学産学連携センター（通称:ASO）」を設立。

③ 既存施設の利用によるクロスする場の早期提供

- ✓ テクニサーチパーク内に所在する民間ビルの一画に、コワーキングスペースや会議室、イベントやセミナー開催可能なオープンスペースを備えた拠点「Pre-UXイノベーションハブ」を令和4年度に開設。

④ テクニサーチパークの賑わいの創出

- ✓ テクニサーチパーク全体の賑わい創出を狙い、テクニサーチパークフェスを開催。テクノ中央緑地公園を活用し、親子連れを含めた多くの方が来場。